

予防接種スケジュール

生まれ		0歳 1か月 2か月 3か月 4か月 5か月 6か月 7か月 8か月 9か月 10か月 11か月 1歳 1か月 2か月 3か月 4か月 5か月 6か月 2歳															
ワクチン名	接種時期																
B型肝炎 定期	①-②は27日(4週)以上あける ①-③は139日(20週)以上あける(1歳未満は公費)	1回目	2回目	①-② 27日(4週)以上	3回目	①-③ 139日(20週)以上											
Hib感染症 定期	①-②-③はそれぞれ27日(4週)以上あける ③-④は7~13か月あける	1回目	2回目	3回目	①-②-③ 27日(4週)以上							4回目	③-④ 7~13か月				
小児の肺炎球菌 定期	①-②-③はそれぞれ27日(4週)以上あける ③-④は60日(2か月)以上あけて1~1歳3か月で接種	1回目	2回目	3回目	①-②-③ 27日(4週)以上							4回目	③-④ 2か月以上				
4種混合(DPT-IPV) 定期	①-②-③はそれぞれ20~56日(3~8週)あける ③-④は標準的には12~18か月の間に接種				1回目	2回目	3回目	①-②-③ 20~56日(3~8週)							4回目	③-④ 12~18か月	
BCG 定期	標準的に生後5か月~8か月で接種 1歳未満まで公費							1回目	生後5~8か月								
ロタワクチン 定期 ※2020年8月以降に生まれた方々は10月より公費	ロタリックス(1価) 2回経口投与 ①は生後6週~14週6日までを推奨 ①-②は4週以上あけ、24週までに完了	1回目	2回目				①-② 4週以上24週まで										
	ロタテック(5価) 3回経口投与 ①は生後6週~14週6日までを推奨 ①-②-③は4週以上あけ、32週までに完了	1回目	2回目	3回目				①-②-③ 4週以上32週まで									
MRワクチン(麻しん風しん) 定期	1歳になったら早めに接種(2歳未満は公費) 年長児の1年間で2回目を接種													1回目	1歳になったら		
水痘(みずぼうそう) 定期	1歳になったら早めに接種 ①-②は3か月以上あける(3歳未満まで公費)													1回目	1歳になったら	2回目	①-② 3か月以上
おたふくかぜ 任意	1歳になったら接種可能 年長児で2回目を接種													1回目	1歳になったら		

定期 ……公費で接種、但し各ワクチンに公費対象年齢があるので注意
任意 ……自費で接種(料金がかかります)

……接種可能期間が重なっていれば同時接種可能
 ①回目 ②回目 ③回目 ……接種回数
 ①-②-③ ……表示期間は接種を空けてください。

小児科/アレルギー科/心療内科/子育て支援
パームこどもクリニック
 〒520-3027 滋賀県栗東市野尻440
 TEL.077-551-2110(代表)

ケータイから予約もできます。


※接種期間内でワクチン接種ができなかった場合や不明点などがある場合はスタッフまでお尋ねください。

ワクチンで予防できる子どもの病気

BCG

【結核】

せきや発熱が続く病気ですが、子どもの場合、せきなどの症状はあまりみられません。赤ちゃんの場合は、粟粒結核や髄膜炎など重症になりやすく、後遺症が残ったり、死亡することもあります。

4種混合

【ジフテリア】

のどについたジフテリア菌が増えて、炎症を起こす病気です。38度以上の熱と、犬の遠吠えのようなせきが特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし死亡することもあります。

【百日せき】

連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので笛を吹くような音(ウープ)をともなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等が起こる病気です。乳児では無呼吸状態になることがあります。肺炎、脳炎を併発することがあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなったりします。

【ポリオ】

小児麻痺とも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状がでる場合は熱が下がった後に手足の麻痺があらわれます。

麻疹風しん混合

【麻疹 (はしか)】

熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、熱はいったん下がった後、上がります。特有の赤い発疹が顔から全身へ広がります。かかると肺炎や気管支炎、脳炎を合併することもあり、死亡する例もあります。

【風疹 (三日ばしか)】

発熱、赤い発疹、首のリンパ節のはれの3症状が特徴の病気です。熱がでないことも多くかぜに似た症状で、ふつうは3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。

日本脳炎

【日本脳炎】

感染したブタから蚊がウイルスを運んできて感染し、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても大多数は無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。治療が難しく、死亡や重い後遺症の危険性があります。

ヒトパピローマ

【子宮頸がん】

子宮頸がんの90%以上はヒトパピローマウイルス(HPV)と呼ばれるウイルスが関わっています。HPVは一般に性行為を介して感染することが知られています。このワクチンは副作用のことが話題になりましたが、現在は因果関係は否定されています。子宮頸がんの予防効果も高く思春期早期の小学校6年生から高校1年生までの時期に受ける必要があります。

※当院ではカードシルを取り扱っています。

小児の肺炎球菌

【肺炎球菌感染症】

肺炎球菌による病気で、脳を包む髄膜で炎症を起こす細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、死亡や重い後遺症の残る例もあります。菌血症は髄膜炎の前段階となることがあります。肺炎や中耳炎は治りにくかったり、繰り返したりします。

Hib感染症

【Hib(インフルエンザ菌b型)感染症】

インフルエンザ菌b型という細菌(※インフルエンザウイルスとはまったく別のもの)による病気で、細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎、肺炎などを起こします。5才までにかかることの多い病気です。髄膜炎は早期診断が難しく、重症化します。死亡や重い後遺症の残る例も多くあります。

ロタ

【ロタウイルス胃腸炎】

ロタウイルス胃腸炎は激しい下痢やおう吐によって脱水を起こしやすく、けいれんがみられることもあるため、もっとも重症化しやすい乳幼児の胃腸炎と言われています。また、感染力が強く、衛生状態に気を付けるだけでは防ぎきることが難しい感染症です。

B型肝炎

【B型肝炎ウイルス】

B型肝炎ウイルスが体に入ると肝炎をおこし、長く肝臓にすみついて(慢性化・キャリア化)、肝硬変や肝臓がんをおこします。非常に感染力が強いウイルスで、母親からの分娩時の感染(母子感染・垂直感染)や、原因が明らかな水平感染だけではなく、特に子どもの場合は、感染源が原因不明のことも多いとされます。

水痘

【水痘(みずぼうそう)】

強いかゆみのある赤い水泡をともなった発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

おたふくかぜ

【おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)】

発熱とともに片方または両方の唾液腺(※耳の下からあごにかけての部分)、特に耳下腺はれる病気です。ふつう1~2週間で治りますが、無菌性髄膜炎や脳炎を合併することもあります。治らない難聴(片側)になったりします。

インフルエンザ

【インフルエンザ】

悪寒や発熱、頭痛、関節痛などの全身症状がみられる病気です。赤ちゃんがかかると気管支炎や中耳炎、肺炎を合併することもあります。脳症を起こすと死亡や後遺症の危険性が高くなります。